

五穀豊穰と安全を願って

お法使祭り 小谷地区から杉堂地区へ



手荒く投げ落とされ担ぎ棒が折られた神輿

10月30日、約700年以上もの伝統を受け継いでいる『お法使祭り』がにぎやかな中にも厳粛に執り行なわれました。

このお祭りは、御神体が神殿を持つていないため、津森神宮周辺の12地区の氏子地域（益城町、西原村、菊陽町）で順番に御飯屋を祭り、次の地区に引き継いでいくお祭りですが、引き継ぐ際に、御神体の乗った神輿を地面に投げ落として手荒く扱うという、全国的に珍しい祭りです。今年是小谷地区から杉堂地区に引き継ぐため、まず、遷宮祭と呼ばれ

る御神体を神輿に遷す神事が行われ、小谷地区の若者が神輿を担ぎ、笛や太鼓、道楽や道踊りを従え、杉堂地区へ向かって下小谷地区、上小谷地区を順に練り回りました。途中、この祭り最大の見せ場である神輿投げが民家前や田んぼ、お休み場で行われると、神輿が落とされる度に見物客から大きな歓声とため息があがっていました。

また、担ぎ手のあまりの元気の良さに、神輿の担ぎ棒が折れてしまい、添え木をするというハプニングもありました。

夕方、杉堂御飯屋に無事に御神体を戻す神事が終わると、12年に一度のお祭りに、地区の家々では、五穀豊穰と安全を祈願して夜遅くまで宴がひらかれていました。



お迎えに向かう杉堂の人々

「J」の先生、夢をありがとう

広安西小で「夢の教室」開催

日本サッカー協会（JFA）主催の「夢の教室」が10月27日、広安西小学校で開かれ、5年3組の児童が元Jリーガーで現ロアッソ熊本スカウトの森川拓巳さん（32）から、夢についての授業を受けました。

森川さんは、静岡学園高校から柏レイソル、川崎フロンターレに在籍していたころの思い出や味わたった挫折の数々を振り返り、その度に支えてくれた人がいたことを強調。子どもたちに「夢は一人ではかなえることができません。良きライバルやいろんなことを相談できる人を大切にして、がんばってください」とエールを送りました。



自らの体験をもとに、夢について語る森川さん



子どもと一緒に収穫作業を行う井関農機のみなさん

コンバインに乗ったよ

井関農機労組と広安愛児園の子どもたちが稲刈り

10月24日、井関農機労働組合熊本支部（串山繁寿支部長）と広安愛児園の子どもたち計60人が、町民グラウンド西側の田んぼでボランティア米の収穫作業を行いました。

これは、地域貢献と米飯の消費拡大を目的に同組合が毎年実施しているもので、収穫したコメは精米後、ボランティア祭りや福祉施設などに配っています。

子どもたちは、鎌による手刈りを行ったあと、同社が用意した2台のコンバインに便乗。初めて体験する機械による作業に笑顔を見せていました。